

に巧に、藩の科學史上最も大なる足跡を印した。その著書及び記録に禮法書・自詠集・西洋説聞書・時規物語・鷓鴣の囀・寫法新術・蓬萊三寶眞寫・算小箋・寫法凡例圖解・和西洋分契・太常太子一線測・尾星觀測並記・上野時鐘測・漏刻定香線香食刻測・天時規用法・自鳴鐘天符年中法・鐘音遠聞測・立春曆・西洋曆日知算・和漢年契朱書早鐘・晴雨寒暖候六十餘年記・晴雨寒暖候十年一目圖・方輿人重晴雨寒暖重・正

方明節・溫氣候・時期用日・天度算・輿寐表・望遠鏡倍數・鏡影並目鏡距寸・ヲクタント用法・子午線法・地球實測・居屋敷巡量・跬數用法・間尺法・兩郡跬數・野端道程・町外巡量・日本道程并略圖・白立遠高測・山代吉崎測量・馬走人歩時刻測・地距用術・地度算があり、又製作器具には垂搖球測用時規・象限儀日景高・鏡盤位測用・正時版・測晷版・方邦一晷・測晷牌・四能導(既景規)・正偏西盤・極線指晷盤・明刻版・月行儀・水平代三斜繩・間量車・測路輪儀等があつた。

後井口岸川によつて遠藤高環行狀記が著された。

エンドウナガユキ 遠藤長之 通稱伴太夫。元祿十年新番並となり、十三年新番に進み、新知百石を受けた。新番組で知行を授けられたものは之を以て嚙矢とする。享保九年同小頭に任じ、元文二年五十石を加へ、組外に列し、元文元年六十六歳を以て歿した。

エントクジ 圓徳寺 鳳至郡熊野に在つて、眞宗東派に屬する。

エントクジ 圓徳寺 鳳至郡熊野に在つて、眞宗東派に屬する。

エンニ 圓忍 字は眞政。石川郡吉藤村の人、俗姓蓮田氏。慶長十四年四月二十日に

生まれた。十四歳の時、金澤伏見寺に入り、快支阿闍梨に師事し、十八歳にして高野山に登り、寶光院長青大徳に従ひ、延寶五年十二月廿五日六十九歳を以て寂した。

エンボウユライシヨ 延寶由來書 延寶二年に前田綱紀が寺社奉行に命じて、領内の寺社から書上げしめた由來書である。貞享由來書よりも確實な點もあるが、彼の如く領内全部を網めたものは傳はらなかつた。

エンママツリ 閻魔祭 舊正月十六日及び七月十六日に行はれ、金澤天徳院の閻魔祭には參詣する者が多かつた。

エンマンジ 圓満寺 能美郡八幡の南部に、八幡神社の別當たる天台宗圓満寺があつて、その地を圓満寺村といふこともある。圓満寺は後眞宗に歸して、小松の本光寺になつた。

エンマンジ 圓満寺 羽咋郡瀬戸に在つて、眞宗東派に屬する。

エンミヨウイン 圓明院 加賀藩主第十四代前田慶寧の子傳頼の法號。詳しくは圓明院智性不味童女。

エンメイイン 延命院 金澤西御影町の末、馬場先の地に居た山伏で、藩末には岸川春日の別當寶久寺の弟子であつた。明治二年復飾し、延村久見と改めて神職となつた。

エンメイインシバイ 延命院芝居 文政元年十二月六日の加賀藩の達書に、『末々輕き者共稼も薄く、難澁の体に付、芝居・狂言・物眞の類、當分町奉行切に承届。』とあつて、十二月十六日から岸川河下延命院のうしろ河原で芝居を興行した。これは寛永中芝居・淨瑠璃を禁止せられた後、再び公許せられた初め

あるといふ。

エンユウジ 圓祐寺 金澤馬場五番丁に在つて、日蓮宗に屬する。山號は三諦山。寺記に、寛永十四年期長高道町に創立せられ、慈雲寺の二代日性の開基になつたものであるが、元文五年類焼し、寛保元年今の地へ轉じたとある。

エンユウホウ 圓融坊 羽咋郡浦谷日蓮宗妙成寺の塔頭で、慶長七年應徳院日祥の建立に係る。

エンリユウジ 圓龍寺 鳳至郡輪島町に在つて、眞宗東派に屬する。

エンリユウジ 圓龍寺 珠洲郡高屋に在つて、眞宗東派に屬する。山號は經谷山。もと同郡稻舟に居たことがある。

エンリヨ 遠慮 士人にして役儀を等閑にした如き科によつて、その自宅に謹慎せしめられるものに遠慮と通案とがある。共に閉門の如く門戸を閉つことを要しないが、寛文の法令によれば、遠慮は知行・扶持共に給し、逼塞は知行を給するが扶持は給しなるとある。

エンリンジ 園林寺 金澤新道に在つて、眞宗東派に屬する。明治十三年寺號の公稱を許された。

エンルイゴジユウモン 圓類五十問 一冊。本編は元來江戸の坂部廣胖の著した算書であるが、文化十一年蒲川有友が校訂を試みたものである。

オアツカリチブギヨウ 御預地奉行 御預地奉行は一人役で、享保七年七月廿八日横山兵庫長元がこれを命ぜられ、爾後人持組の士にして御算用場奉行となるもの、兼役として連綿した。

オアツケ 御預 士人の罪を取調べ中、又は刑の宣告後實刑を科するまでの間、組頭又は一類に身柄を御預とすることが往々にしてある。農民では組織許へ預、又は手錠縮を以て組織許へ預の名目があつて、輕い刑の一種になつてゐた。組織許へ預は、裁許から更に村役人に預け、番人をして晝夜監視せしめるものである。手錠を以て組織許へ預も同じく、その手錠を施すは取締の爲で、概ね二十日間を過ぎるを許されず、疾病の者には片手に施して療養に便せしめた。町人にも組合預・一類預があつて、組合又は一類から番人を附せられた。

オイシヤ 御醫者 藩の御醫者の初は不明であるが、前田利長越前府中在城の時、口科の江間竹林坊の召出されたのが、その姓名の初見で、慶長十一年内山覺中が富山で召出されたのは本道の姓名の初見である。また元祿六年六月四日本草家稻宣義に二百石を賜はり、

エン—オイ

オ